



曙橋 (東温市土谷)

江戸時代、旧桜三里(中山越)に松山藩によって架けられていた屋根付き橋を再現したもの。江戸時代に著された「久米郡手鑑」には「田桑の鞘橋御公儀普請」と記されている。

## 変遷する医療ニード

ある統計資料によると、日本の人口動向は、第1段階として、2040年頃までに「老年人口増加、生産・年少人口減少」、第2段階として、2060年頃までに「老年人口維持・微減、生産・年少人口減少」、第3段階として2060年頃以降「老年人口減少、生産・年少人口減少」と大きく「3つの減少段階」を経て人口減少に至ると言われている。この人口動向は、病院の将来の方向性を検討するうえでも重要な指標となる。

また、平成26年の通常国会で成立した「医療介護総合確保推進法」に基づき、平成27年4月より、都道府県が、団塊の世代が75歳以上となる2025年(10年後)に向け、病床の機能分化・連携を進めるために、医療機能ごと(高度急性期機能、急性期機能、回復期機能、慢性期機能)の医療需要と病床の必要量を推計し「地域医療構想」を策定することとされ、また、平成26年10月から病床機能報告制度も開始された。

従って、人口動向を勘案しつつ当院の将来を見据えた医療機能の検討は当然であるが、一方では、病院として存続し続けるためにも経営の健全化は避けて通れない。

そのような状況の中で、当院の大きなプロジェクトの一つは、松山市医師会からの要請もあり、平成28年度からの松山市の病院群輪番制救急に参加することである。現在、病院が一丸となって救急病院としての体制等の検討を行っている。

今後重要となるのは、人口動向も踏まえた中・長期の展望を見据えた将来ビジョンの策定とそのためロードマップの作成である。院長を中心に十分にディスカッションし、将来ビジョン策定に繋げていきたい。

事務部長 浅松 誠治



# はじめまして

## 小児科

### 今井琴美Dr



平成27年9月1日より、愛媛医療センターに赴任いたしました、今井琴美と申します。大学を卒業後、結婚を機に愛媛県に引っ越してきました。2年間の初期研修を愛媛大学医学部附属病院で終え、その後出産、子育てを経て愛媛県立中央病院に赴任いたしました。その後、第二子を出産し、この度職場復帰する運びとなりました。

小さな子どもを抱えての仕事は、急な病気や用事でなかなか思うように働くことができない時期もありました。自宅に帰っても家事と子供の相手に時間をとられ、なかなか勉強する時間なども持てませんでしたが、それもわずかな期間で、子どもの成長はとても速く、無限の可能性を秘めているのが子

どもだなあと感じました。小児科医として、子どもに関わる中で、どんな子ども無限の可能性を秘めていると思います。そんな子どもたちの一生の一部に関わることができれば、と思っていますが、逆に子どもたちの笑顔に励まされ、教えられてばかり、与えられてばかりの日々です。

子育ての期間もあり、まだまだ未熟で勉強することも多々ありますが、まずは環境と仕事に慣れることを目標とし、子どもたちと一緒に成長できるように一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 傾聴 謹聴

### 第9回 臨床研究部講演会

平成27年7月2日に恒例の臨床研究部講演会を開催致しました。例年基礎・臨床医学研究の講演でしたが、今回は要望の多かった救急医療について、梶川愛一郎先生（四国こどもとおとなの医療センター、統括診療部長・救急救命センター長）から「統合新病院での救急救命センターの現状」と題してご講演を頂きました。

2年前に香川小児病院と善通寺病院が統合・新築された際に救急救命センターが組織されましたが、この2年間で、小児と成人で違いがみられること（救急外来患者さんの中で小児は20%を占め軽症が多



梶川愛一郎先生

いこと、成人が80%を占め半数が入院となることなど）、救急受診患者が入院患者確保に重要であること（外来患者の10%を占め、入院患者の40%を占める）、毎日24時間体制で医師8人/日に対応していること（宿直が各医師4~5回/月あり、日中の勤務態勢を考慮している）などを紹介されました。

また、1次から3次までのER型にならざるを得ないこと、トリアージ・初期治療にER専門医や診療看護師が有効であること、入院患者の受持医の調整が重要であること、災害医療とも関係していることなど、興味ある経験談が聞けました。

梶川先生以下救急医療スタッフのがんばっている様子が伝わってくるご講演でした。来年度からの当院の病院群輪番制救急加入にも大変参考になったと考えます。今回も準備していただいた臨床研究部関係者に感謝致します。

臨床研究部長 松田 俊二



質疑応答

# 緊密感急上昇

## 第6回 地域医療連携交流会

平成27年7月18日(土)、当院において地域医療連携交流会を開催しました。今年で第6回目となる交流会は、心配されていた台風の影響もなく、県内25医療機関より、院長先生、医師、看護師、地域医療連携室、MSW、事務職など合わせて60名近いご参加をいただきました。

第1部では、当院医師による症例検討「家庭内発症した急性E型肝炎」、「近医での長期運動療法が奏功した超重症心不全の一例」と、講演「肺癌診療-up to date-」を行い、講演後は参加者より様々なご質問やご意見をいただきました。



乾杯の音頭を取る八木東温市医師会長

第2部の意見交換会では、ビュッフェ形式で食事をしながら意見交換を行いました（もちろんノンアルコールですが）。東温市医師会長 八木 拓先生による乾杯の後、和やかな雰囲気の中で、参加医療機関による自己紹介や各病院のスライド上映を行い、様々な職種間での意見交換と親睦を図ることができました。

今後は地域包括ケアシステムの構築に向けての医療機関の病床機能分化や、開業医の先生方、介護・福祉施設等との連携強化による効率的な医療が求められることになると思いますが、より良い連携ができるよう今後も取り組んでいきたいと思っております。

ご多忙の中、多くの方々にご参加いただき、ありがとうございました。



# 地域の輪



## 藤本内科クリニック

### 繋がる地域医療連携

藤本内科クリニックです。東温市横河原で診療しております。平成11年3月に開院して早くも16年経ちました。昔、病院勤務のときは、呼吸器内科に在籍しており、開業してからも、呼吸器を中心に診療していこうかと考えておりましたが、いざ、診療し始めると、呼吸器には関係のない患者さんばかりでした。とはいえ、風邪、気管支炎、肺炎の方もおりますが、生活習慣病（高血圧、糖尿病、高脂血症）の方が、今では中心です。

地域医療という点では、グループホーム、在宅で寝たきりの方の往診もしております。自分の体は気になるが、病院にはあまり行きたくないと考えている方も、あまり気にせずに受診してください。私が、自分では診察できないときは、愛媛医療センターをはじめ、専門の医療機関を紹介します。また、自分のこの症状はどの科を受診したらいいのかと迷っている方も、いらしてください。

これからも患者さんに、優しく、親切に診療していこうと考えております。



施設名：藤本内科クリニック  
理事長：藤本明彦  
住所：東温市横河原1301-3  
電話：089-960-5500  
診療時間：午前 9:00~12:00  
午後15:00~19:00  
休診：水曜・土曜午後・日曜午後・祝日

## 医心伝心

### 骨粗鬆症「いつのまにか骨折」のおはなし

「最近、背中が曲がってきた…」 「背が縮んだ気がする…」 「腰が痛い…」 でもそれは、歳をとったせい。そう思っていないですか？これらの症状は、単なる加齢のせいではないかもしれません。骨粗鬆症が隠れている可能性があるのです。骨粗鬆症による骨折が起こると、腰の痛みを感じる方もいますがそうでない場合もあるので気づかずに過ごしている方がとても多いのです。

気づかないうちに背骨がつぶれる骨折を「いつのまにか骨折」と言います。高齢者の脆弱性骨折の内、脊椎骨折の2/3は外傷なくレントゲンで初めて診断される無症候性の椎体変形を示すのです。更に一度骨折すると次々骨折を起こしやすくなる骨折連鎖に陥る事が分かっています。

骨粗鬆症は、骨の量が減少したり、骨の質が劣化（質が悪くなる）したりして骨が弱くなり、骨折しやすくなった病気です。骨折のリスク評価において骨の強さ（骨強度）は、骨の量（骨量、骨密度）と骨の質（骨質）両方が関与しており、それぞれが70%、30%の割合で骨強度に影響して

各科のドクターがそれぞれの専門分野から、病気・治療・予防等々フリーテーマで一文をしたためます。

います。そのため糖尿病、肝疾患、腎臓病などの内科疾患を持つ方は骨質が低下し、年齢以上に骨折しやすい事も分かっています。

骨折を予防することは、高齢者にとって重要な問題です。骨粗鬆症治療を行うことで、骨折リスクを50%軽減する事ができます。特に骨粗鬆治療薬はここ4、5年相次いで新薬が登場し、大きな転換期を迎えています。骨質改善の効果も期待される薬剤もあり、今後もさらに、新しい作用機序の薬剤が登場してくる予定です。気になる症状がある場合は、ご相談ください。



整形外科医長 宮本 良治

# はい ハイ 肺

## 第36回 ヘルスアカデミー 肺の日記念市民公開講座

「平成27年度肺の日記念市民公開講座」が当医療センターと愛媛大学医学部の主催で7月25日、いよてつ高島屋7階キャスルルームで開催されました。

日本呼吸器学会は5月9日を「呼吸の日」、8月1日を「肺の日」と制定し、呼吸に大切な肺を守るために市民の方々に講演会などの啓発活動をしています。日本呼吸器学会中国・四国支部会が共催となり今年度の肺の日記念市民公開講座を8月1日に近い7月25日に愛媛県松山市で行うことになったわけです。



肺機能測定



当院からの参加メンバー

第一部は地元の呼吸器専門医の先生の講演がありました。当院の伊東亮治先生の「たかが肺炎、されど肺炎 ～高齢者肺炎球菌ワクチンについて～」、愛媛大学医学部附属病院の片山均先生が「肺の生活習慣病COPDと上手に付き合おう」、四国がんセンターの山下素弘先生が「肺がんの早期発見と治療について」と肺の病気の中でも関心の高いテーマを取り上げました。190名もの市民の方が参加され、質問も多くありました。

後半の第二部は「肺年齢チェック」と題して呼吸機能検査の機械を5台用意し、ご自身の肺機能を測定しました。測定値は肺年齢に計算され、実年齢と比べることができるので一喜一憂していました。また測定結果はすぐに医師が解説しました。

3時間の肺の日市民講座でしたが、土曜日の午後のひと時に“肺の病気から健康を守る”ことを考える良い機会になったのではと思います。

市民公開講座を開催するにあたり、ご協力をいただいた関係各位に深く感謝申し上げます。

平成27年度肺の日記念市民公開講座会長：副院長  
阿部 聖裕

## やったネ！大久保Dr

### 第53回 日本呼吸器学会中国・四国地方会で

## 若手優秀演題賞受賞

7月3日(金)・4日(土)の2日間にわたって松山市で開催された「第53回日本呼吸器学会中国・四国地方会」で「スチーム式美顔器使用者に発生したHot Tub Lung の1例」という演題で、当院呼吸器内科大久保史恵医師が若手優秀演題賞を受賞しました。中四国の若手呼吸器医師においても最も価値のある賞のひとつです。以下大久保医師の喜びのコメントを掲載します。

発表にあたりご指導いただいた呼吸器内科の先生方に感謝するとともに、この病院で働けることをとてもうれしく思います。本番はとても緊張しましたが、呼吸器内科医師全員が応援に駆けつけてくださり、心強い中で発表することができました。

学会での臨床研究発表、症例発表は患者さんあってこそのものであります。珍しい症例を経験したときには、

実にたくさんの文献を調べて検討し、学会発表を行います。それ自体がとても勉強になることですが、貴重な症例ですから、学会で討議しさらに考察を深めていきます。その結果としてこのような賞をいただくことができました。感謝の気持ち以上に、身の引き締まる思いです。

すべての努力が日常診療の向上につながると信じています。中でも患者さんを通して学んだことや悩んだことは、ひとつずつ、臨床医としての力につながっています。今後は症例発表だけでなく他の研究発表もできる医師となり、そしてまた患者さんに還元ができるよう、今後も努力を続けていきたいと思っています。



賞状を手にする大久保Drと阿部副院長



# 医療安全管理 だより

こんなことしています

医療現場における、ヒヤットしたりハットする事例や医療事故の原因として個人のミスもその一つですが、複数の職種間でのコミュニケーションエラーも重要な原因の一つと言われています。

コミュニケーションの大原則は、一方通行ではなく必ず相互通行である必要があります。すなわち、言いつばなしにならないようにすることです。「自分はこう受け取ったが、これで良いか」を確認しなければなりません。

6月16日と7月9日に全職員を対象に医療安全研修を行い、特に以下のことが重要であると再認識し、個人はもとより組織として医療安全に取り組んでいます。また、聞きやすい、話しやすい環境づくりにも心がけています。

半錠飲んでください

いえいえ  
1/2錠です

3錠ですか？



- ◆わかりやすい文章で伝える：相手が理解できる用語。なじみ深い言葉。平易な文章。
- ◆正確に表現する：適切な表現。曖昧ではない。明瞭な言葉。
- ◆完全なメッセージを伝える：必要な情報を全て含める。情報過多ではない。
- ◆要点をまとめる：短く簡単な文章。簡潔である。不要語を避ける。箇条書きなど。

患者様（ご家族様）も、医療のパートナーとして参画していただき、疑問・不安に思うことは気軽に声をかけていただきますよう今後ともご協力よろしくお願い致します。

## 四季燦餐

～いもたきの巻～

暑さも和らぎ、秋の気配が少しずつ感じられる季節になりましたが、いかがお過ごしですか。

皆さんは、秋の風物詩といえは、何を思い浮かべられますか～？



「紅葉」「栗」「さつまいも」「秋刀魚(さんま)」「お月見」「読書」など…。

“食欲の秋”とも言われるように、美味しいものも沢山市場に出回るようになりますが、今回は、愛媛県内の秋の風物詩として有名な「いもたき」について御紹介したいと思います。

「いもたき」は、文字通り、屋外で「いも」を「たき(炊き)」、それを肴に大勢で宴会することをさして言います。

発祥は、伊予の小京都、大洲市といわれ、300年の伝統があるそうです。大洲市のいもたきは、藩政時代に行われていた「お籠もり」という住民が集まる行事が起源とされています。その当時は、各農家が肱川の運んできた肥沃な土で育った夏芋(里芋)を河原へ持ち寄り、肱川の鮎から取ったダシで炊き、これを食べながら相談事を行っていたそうです。

この素朴な親睦融和の風習を現代の方にも楽しんでいただこうと昭和40年に観光行事化されたようです。

今では、夏の終わり頃になると、県内のあちらこちらで見かけられる光景になりました。

地域によって、また、ご家庭によっても、味付けや材料に違いがあるようですが、ご家族で、またご友人と「いもたき」を囲んで、秋の夜長を楽しまれてはいかがでしょうか。



### オープンスクール

今年もオープンスクールが終了しました。7月18日と26日の2日間で行いましたが、計103名の方が参加してくれました。私たちは、参加者の方に、楽しみながら、本校や看護について知ってもらえるよう、話し合いを重ね準備を進めました。

当日、午前中は学校の概要説明と学校教員による喀痰吸引の公開講座が行われました。午後はグループに分かれ、在校生が主となり看護体験と交流会を行いました。看護体験では、喀痰吸引や手浴、沐浴・妊婦体験を実施し、参加者の方に実際に看護技術の体験をしていただきました。特に喀痰吸引で



喀痰吸引体験

は、初めて行う看護技術に対し緊張も見られていましたが、「ここでしかできない体験!」「見学だけだと思っていたが体験させてもらって良かった。」など、多くの方から喜びの声が聞かれました。また、手浴では、「会話をしながら行うのが、とても気持ちよかったです。」「コミュニケーションの大切さがよくわかった。」などの感想が聞かれ、私達の想いが皆さんにしっかり伝わっていたので安心しました。交流会では、参加者の方からの様々な質問に、在校生は自らの体験談で応じました。リアルな体験談に、とても興味を示してもらえました。楽しい学生生活をイメージしてもらえたと思います。

私たちは、オープンスクールに参加してくださった方の中から、少しでも多くの方が入学し、共に看護の道を歩んでいけることを願っています。

12期生 小西 加代未・笹島 梨加



私にも見せて

母性体験

## ちよんとい言ひ放し

愛媛医療センターニュース編集委員の持ち回りでお届けします。

海の向こうのおとなり山口県から、今年四月に転勤で愛媛県に came ました。香川や徳島、高知には旅行で何度も訪れたことはありますが、何故か愛媛は生まれて初めての地です。さっそく観光ガイド本を買って、週末は温泉と霊場巡りをして楽しんでます。道後温泉には七月に行きました。入口は観光客で溢れ、炎天下、夏に来たことを後悔しながらしばらく並んでの入浴でした。入浴後に浴衣姿で本館から外を見ると地ビールのお店に行列が。湯上りの汗も引かないままそそくさと着替えて『夏で良かった。電車で来て良かった』と思いつつ、キンキンに冷えた地ビールを三種類堪能。生きていく喜びを実感しました。

山口県も温泉は多く、長門湯本や湯田温泉は有名ですが、ネットランキングによると残念ながら道後温泉に軍配が上がっています。特に女性に人気が高いとありましたが、外国の方も多く見かけました。泉質は湯田温泉も負けませんが…。

東温市の住まいの近くにも温泉があり、こちらは歩いて行けるので風呂上がりのビールが心おきなくおかわりできるのでお気に入りです。ただし、帰り道に愛媛医療センターがあるので、千鳥足にならないように気を遣います。

帰省するときはお土産によく東温市のどぶろくを抱えて帰ります。山口県は『獺祭(だつさい)』や『五橋』など美味しい酒は色々ありますが、どぶろくはあまり見かけることがなく、ご近所や親戚にも喜ばれています。やや甘めが多いので見かけ以上に女性も飲みやすいと思いますが、アルコール度数が高いので要注意です。経験上、女房を酔わせても良いことはありません。

これから気温が下がってくると更に温泉とお酒が恋しくなってきます。単身赴任で困ることは、温泉地に車で行くと飲めないことです。お風呂だけで帰るのは物寂しいですが、グツと我慢して家路を急ぎ、独り晩酌に勤しみます。

折角なので次の転勤までに、愛媛の酒米『しずく媛』で醸した熱燗が美味しいものはないかと探しています。

奇兵隊





**外来診療担当医表** 内科外来直通電話 089-990-1834 FAX 089-990-1858  
外科外来直通電話 089-990-1835 FAX 089-990-1859

診療科	月	火	水	木	金
循環器内科	船田	岩田 泉 河野	岩田 泉 檜垣	岩田	船田
消化器内科	古田	山内(一)	久保 廣岡	山内(一) 糖尿病専門 大藏	久保
呼吸器内科	阿部	伊東 渡邊	佐藤	阿部 大久保	伊東 中村
神経内科	小原	岡田		小原	戸井
外科	石丸				
消化器外科		鈴木	森本	渡部(隔週)	
呼吸器外科				澤田(偶数月) 未久(奇数月) 佐野(第4週)	湯汲
整形外科 午前のみ診療	横手 宮本	曾我部	横手 曾我部	宮本	宮本(第2・4) 曾我部(第1・3・5)
専門外来 (予約制)	心臓外科外来			泉谷(隔週)	
	ペースメーカー外来			第2・4(午後)	
	糖尿病外来				古川(第2・4)
	フットケア外来			毎週	
	スキンケア外来		第1・3(午前)		
	ペインクリニック			山内(康)(午前)	
	じん肺外来				西村(第1・3)(午前)
	アスベスト外来		午後		午後
	息切れ外来	渡邊(13時30分~)			
	SAS外来				渡邊(午後)
	神経難病			橋本 今井	
	小児(神経外来)	矢野			矢野
頭痛外来				永井(第2・4)	

※外来受付は8時30分から12時までです。内科は13時から16時までです。  
ただし、土・日・祝祭日・年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。  
※SAS(睡眠時無呼吸症候群)

2015年10月1日現在

**独立行政法人国立病院機構 愛媛医療センター**

〒791-0281 愛媛県東温市横河原366 TEL 089-964-2411 FAX 089-964-0251  
ホームページアドレス <http://www.ehime-nh.go.jp>

**当院の位置と交通**



**高速道路川内ICまでの所要時間**

- 三島川之江IC(70km) 50分
  - 高松西IC(130.9km) 1時間30分
  - 徳島IC(170.9km) 1時間50分
  - 高知IC(130.1km) 1時間30分
- (川内ICから当センターまで車で5分)

**交通機関**

- 電車** 伊予鉄高浜横河原線横河原駅下車徒歩7分  
または、愛大医学部南口駅下車徒歩3分
- バス** 伊予鉄松山市駅川内方面行横河原下車徒歩10分  
松山市から30分 伊予市から40分 西条市から60分
- 自家用車** 無料駐車場完備

※弊誌の基本方針として、掲載写真については原則ご本人様の了解を頂いております。